

読み聞かせボランティアを行いました

12月17日(水) 富山市立堀川保育所

12月17日(水) 放課後、図書委員会が中心となって、おとなりの堀川保育所で読み聞かせボランティアを行いました。これは、読み聞かせを通して絵本の楽しさを伝え、子供たちとの交流を図ろうというものです。

今年度はクリスマスシーズンに実施(例年は3月実施)、図書委員・放送部員は絵本の読み聞かせ、「舞台表現研究」選択者は大型絵本やパネルシアターを見せながらの歌い聞かせという多彩な内容でした。



思わず立ち上がって聞く男の子も



ゆっくりと大きな声で

読み聞かせをした絵本

「とうさんまいご」「じゅっぴきでござる」「くだものさん」
「百羽のツル」「やさいさん」「プレーメンのおんがくたい」
♪「わたしのワンピース」♪「ブルッキーのひつじ」
♪「やさいのパーティーおおさわぎ」(♪は歌って聞かせたもの)

参加者の感想

- 普通に読むと子供たちには速かったり、自分が集中すると本が傾いていたりで、意外と難しかった。
- 声のトーンや速さに気をつけ、「百羽のツル」に特有の表現も意識して読むことができた。
- 子供たちはすごく元気が良くて驚いた。機会があればまたやってみたい。
- 「くだものさん、くだものさん、だあれ?」という言葉のくり返したが、ゆっくりと問いかけるように読んだ。
- パネルシアターを初めてやって大変だったが、子供たちが野菜の名前を大きな声で言ってくれてうれしかった。

〈参加者〉・図書委員 3名

鳥巢翔子 (205) 佐伯和嘉 (205) 和田暁典 (101)

・放送部員 3名 ・「舞台表現研究」選択者 9名



大型絵本は手作り



音楽も入って楽しい雰囲気

1年 「どくしょボード」作り～伝える難しさを知る



アイデアを出し合って作成中(103)

読書会では4人1組のグループで感想を述べ合い、印象に残った場面や言葉を紹介し合ってその本にぴったりのキャッチコピーを考えました。次週の「どくしょボード」作りでは、イラストを描いたり文字を工夫したりして、自分たちの読んだ感動が伝わるように仕上げました。

「どくしょボードコンクール」結果

- 優秀賞 3組7班「オモニの歌」
 4組2班「『学び』という希望」
 4組9班「狐フェスティバル」
 佳作 1組2班「狐フェスティバル」
 1組8班「森を愛さぬ日本人」



〈感想から〉

- ・読書会は初めてだったが、感想を交換することで、読み終えた本をさらに楽しめた。
- ・話し合いでは皆個性的な意見を持っていて、違った角度から本の魅力を感じることができた。
- ・時間が足りなかったけれど、自分たちが伝えたい気持ちや大切だと思う場面をボードに表現した。
- ・「どくしょボード」作りは本の感想を共有できる楽しい活動だった。

2年 「新書に挑戦！」～新たな興味が広がる

前半は、関心のある新書を読んでブックレビューを書き、5人グループに分かれて読んだ本の魅力を話し合いました。後半は、8人の代表が各班の「おすすめの本」について発表し、クラス代表の4冊を決めました。

クラスで選ばれた本は、「おすすめの新書20冊」として図書室で展示しました。



班代表が本の魅力をアピール(202)



〈感想から〉

- ・普段「新書」は読まないが、これからは積極的に読んでみたい。
- ・「新書」は普段の生活のどこかをピックアップしているからおもしろかった。
- ・代表者の発表は感想に加え、今後どんなところに役立つかをまとめていてよかった。次に本を読む時は、自分の何につながるかを考えてみたい。

3年 新たな世界への期待 ～進路に関する読書から学ぶ



真剣に読書(303)

自分の進路に関連のある本を読み、紹介文と感想を書きました。

〈感想から〉

- ・未来の自分を実現するには、自分に厳しく努力していかなければならないと思った。

2年「クラス読書」 ブックレットを読もう!

2年生は、3学期のHR時に、図書室でブックレットを読む「クラス読書」を実施。「読む・考える・書く」ことを意識して岩波ブックレット等を読み、内容や考えたことをまとめた。

(1/20 3・5組 1/27 4組 2/3 1・2組)

講師 寺崎 実先生 7月9日(水)

7月9日(水)放課後、寺崎実先生を講師に迎え、「グローバルな視野をもとう～台湾・東南アジア訪問を通して～」と題した教養講座を大講義室で開催しました。

昨年度まで高校生海外派遣プロジェクトに携わっておられた寺崎先生は、現地の写真や映像を交えながら、「グローバルな感覚を学生の時に持つことが大切。海外に行くことで、様々な視点で物事を見ることができるようになる」と話されました。

(参加生徒：約50名)



～参加者の感想から～

- ・東南アジアは発展していない国が多いイメージがあったが、高層ビルや地下鉄があることに驚いた。(富山の企業が多いことも初めて知った。)
- ・アジアの中でも様々な文化があることがわかった。(タイでは国歌が流れると通行人が足を止めるというのはおもしろい)
- ・海外の学校は日本の学校とはスケールが全然違って楽しそうだと思った。
- ・高校生海外派遣プロジェクトに興味を持った。
- ・その国の状況はニュースなどで学ぶだけでなく、実際に行ってみて、自分の目でしっかり見るのが大切だとわかった。
- ・海外では様々な点で日本との違いがあり、自分の見ている世界の狭さを痛感した。
- ・異文化への興味が増すとともに、日本の文化のすばらしさを改めて実感した。

校内読書感想文コンクール

<p>優 秀 賞</p> <p>「下町ロケット」を読んで (池井戸潤著「下町ロケット」)</p> <p>「がんばらない」とは (鎌田實著「それでもやっぱりがんばらない」)</p> <p>佳 作</p> <p>一人ひとりの「願い」に向き合う (本多孝好著「MOMENT」)</p> <p>死や老いを考え (片山恭一著「生きることの発明」)</p> <p>生きるということ (百田尚樹著「永遠の0」)</p> <p>「永遠の0」を読んで (百田尚樹著「永遠の0」)</p> <p>「ガラスのウサギ」から学ぶ (高木敏子著「ガラスのウサギ」)</p>	<p>芦崎 美友(101)</p> <p>斉藤 晏(205)</p> <p>鬼頭 奈央(305)</p> <p>谷 亜純(205)</p> <p>飯野 雪乃(305)</p> <p>石坂まりな(202)</p> <p>西島 真由(103)</p>
--	---

「下町ロケットを読んで」 県代表に!

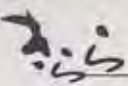
芦崎さんの作品は「第60回青少年読書感想文全国コンクール高等学校の部・自由読書」の県代表作品に選ばれました。
(作品は生徒会誌「泉」第69号に掲載されています)

本との出会いを大切にしたい

芦崎 美友(101)

いずみ高校では「産業社会と人間」の授業があり、常に将来について考える機会が与えられていると感じます。将来について考える中で、主人公の悩みと私自身の悩みが重なりました。夢を追うべきか、安定した生活を重視すべきか。自分の悩みや不安を素直に書くこと、夢に向かって前進したいという意志を伝えることを心がけました。

私は「下町ロケット」から思いがけず将来への考えを得ることができ、本を読むという経験が私の中で活かされていくことを実感しました。これを機会に本との出会いを大切にしていこうと思います。そして、自分らしく成長できるよう努力していきたいです。



文化活動発表会

— 読書の秋に贈る —

「本を楽しもう 2014」

9月26日(金)
～10月3日(金)

文化活動発表会の展示発表で、図書委員会は「本を楽しもう2014」をテーマに、図書委員や先生方のおすすめの本の紹介を行いました。

図書委員おすすめの本

図書室の本から1人1冊選んで紹介文を書き、表紙のカラーコピーとともに構成したものを展示しました。

人気作家の作品や映画化・ドラマ化された作品など、さまざまな本を紹介しましたが、参考にしてもらえたでしょうか。

- | | | | |
|--------------|-------|---------------------|-------|
| ・虹色と幸運 | 柴崎 友香 | ・山手線探偵 1・2 | 七尾 与史 |
| ・きみの友だち | 重松 清 | ・走れ! T校バスケット部 | 松崎 洋 |
| ・ストーリー・セラ— | 有川 浩 | ・ガソリン生活 | 伊坂幸太郎 |
| ・植物図鑑 | 有川 浩 | ・謎解きはディナーのあとで | 東川 篤哉 |
| ・スカイ・クロラ | 森 博嗣 | ・永遠の0 | 百田 尚樹 |
| ・一瞬の風になれ | 佐藤多佳子 | ・西の魔女が死んだ | 梨木 香歩 |
| ・カラフル | 森 絵都 | ・ハッピーバースデー | 青木 和雄 |
| ・ちょんまげぶりん | 荒木 源 | ・王様ゲーム | 金沢 伸明 |
| ・野ブタ。をプロデュース | 白岩 玄 | ・キノの旅 | 時雨沢 恵 |
| ・しゃばけ | 畠中 恵 | ・クビキリサイクル | 西尾 維新 |
| ・手紙 | 東野 圭吾 | など (もっと知りたい人は図書室へ!) | |



木下美央さん(204)紹介の「ツナグ」(辻村深月著)

これをもとにした紹介文が「高校生のおすすめの1冊」(読売新聞富山版)に掲載されることになりました。

先生方のおすすめの本

— いずみ高生に読んでほしい本アンケートから —

◆川西 亨 校長先生

『だからあなたも生き抜いて』(大平光代著)
人生どん底からはいあがる力をもっている。

『思考の整理学』(外山滋比古著)
どうい生活方をしていけばいいか示唆してくれる。

『夢を跳ぶ』(佐藤真海著)
今あるものから出発する(考える)視点がスゴイ。

◆板井 巖先生(理科)

『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』(出雲充著)
ミドリムシという小さな生物(単細胞生物)に人類を救う可能性がある。「この世にくだらないものなんてないんだ」この本を手にとれば、何か(にチャレンジしようという気持ちが湧くのでは…。

◆加藤葉子先生(英語)

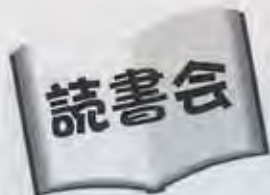
『16歳の教科書 なぜ学び、なにを学ぶのか』(6人の特別講義プロジェクト&モーニング編集部)
分野ごとに「学びの原点」がわかりやすい言葉で記されている。「なぜ学ぶのか」という疑問に対する自分なりのヒントを得ることができると思う。

◆林 大作先生(情報)

『兎の眼』(灰谷健次郎著)
ゴミ焼却場のある町の小学校を舞台に、大学を卒業したばかりの若い女性教師が直面する出来事や出会いを通して児童たちと共に成長する姿を描く。

◆堀井睦子先生(看護)

『生命とは何だろう?』(長沼毅著)
生命とは何か、どこから始まっているのかといった謎を、いろいろな方向から解説されていておもしろい。

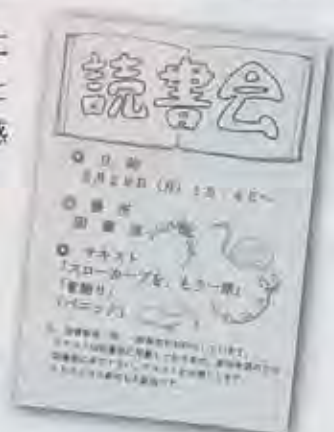


話し合って理解を深める

— 3冊の本を通して —

9月29日(月)

9月29日(月)の放課後、図書室で読書会を行いました。3冊のテキストごとにグループに分かれ、学年を超えて話し合いをしました。「初めて読書会に参加したが、何事も経験だと思った」「他の人と本について話し合う機会があまり無いので視野が広がった」といった感想が聞かれました。



◆「首飾り」 モーパッサン著

小役人の妻である主人公マチルドにとって、舞踏会へ行くことは身分の高い貴婦人と同等の位置に立てる機会。ドレスは買ってもアクセサリがなかった彼女だが、念願の首飾りを貸してもらえることになり、舞踏会で優雅な貴婦人として認められた。しかし、その後には待っていたのは首飾りの紛失だった。

- ・宝石に対する女性の欲望がよく表れていた。
- ・些細なことが人間の浮き沈みを左右する。人生とは気まぐれなものだと思う。
- ・どんなに自由で自信過剰な人でも心を入れ替えればがんばれるのだと思った。
- ・最初、夫人と夫をかわいそうだと思ったが、再読してみると夫人はよい所もあるのだから、自分を認めて好きになろうとする努力も必要だったのではないか。

◆「パニック」 開高 健著

鼠害をめくって科学的な記述あり、役所の中の人間模様あり、レミングの大移動と重なる、なんとなくおとぎ話めいた雰囲気もある小説。日増しに凶暴化する鼠に対して鼠害を警告するビラやポスターが、市民の中に険悪な空気を生み出す。怪しげな噂が広がり始め、人々はパニックに…。

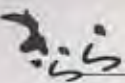
- ・集団の力はとても大きいということや人間は自然の力には勝てるものではない、と恐ろしく感じた。
- ・冒頭場面は衝撃的。ネズミの実験場面はとても暗く、イタチがでてくる場面では悲しくなった。
- ・課長の皮肉めいた言葉や俊介の気持ちが生々しく、上下関係の厳しさを感じた。
- ・集団でしかアクションを起こせない点、すぐ周囲に流されてしまう点は人間も鼠も同じだ。
- ・人は大きな声を上げる人に引き寄せられると考えていたが、この話の鼠には人の集団と違って、中心となる人も共通の思想もなく、破滅に向かっていくと気づかずに走り続けているのが怖いと思った。

◆「スローカーブを、もう一球」 山際淳司著

選抜高校野球で無名の「高崎高校」が関東代表になった経緯が書かれている。エース川端選手は130キロそこそこの直球とスローカーブが武器で、努力や根性は頭が悪いやつのやることだと嫌っている。九回裏の大ピンチの場面でも至って冷静だった。

- ・川端選手のスローカーブに対する絶対的な自信はすごい。
- ・甲子園は高校球児が掲げる当たり前の目標だと思っていたが、そうではないチームがおもしろかった。
- ・甲子園に行けるかどうかの試合で、普通なら興奮する場面でも冷静でいる主人公がとても新鮮だった。
- ・周囲からどんなことをしてくるかわからないチームとして恐れられることになった選手たち。勝つとは思っておらず、勝っても複雑な気持ちが伝わってきた。





企画展

本の翼で新しい世界へ

季節や行事に合わせてテーマを決め、さまざまな本を紹介しました。



第1回 歴史の魅力 再・発見 (4/28 ~ 5/17)

新学年のスタート時期はアカデミックに！ということで、本屋大賞受賞の『村上海賊の娘』をはじめ、歴史上の人物が活躍する歴史小説を紹介しました。ゴールデンウィークにもびったりの読み応えのある本を揃えて、歴史の魅力に浸るお手伝いをしました。



第2回 みんなで童心にかえろう (5/26 ~ 6/13)

絵本は初めて出会う「本」です。幼かった頃、家族と一緒にお気に入りの本を何度も読んだ思い出はありませんか。大人になって読むと、絵本の美しさやほっとするような言葉遣いに気がかされます。絵本のページをめくりながら笑顔になってもらえればうれしいです。



工夫をこらしたPOPにも注目！

第3回 事件の第一発見者はあなただ！ (9/19 ~ 10/3)

ミステリーの醍醐味は、真相を隠すトリックを読み解いていくこと。予想を裏切るとんでん返しが用意されていたり、超常現象も起きたり、読者の興味をとらえて放さない面白さがミステリーの魅力です。秋の夜長はミステリーを存分に。



ただ今 準備中



第4回 VIVA! SPORTS (10/21 ~ 11/7)

学年スポーツ大会の時期に合わせて企画しました。秋のさわやかな空気の中、思いきり体を動かすのは気持ちがいいですね。スポーツはやるのも観戦するのも楽しいものですが、「読んで楽しむ」という新たな楽しみ方を提案しました。

第5回 新たな出会い グリム童話との再会で貴方の知らなかった 世界がそこに (1/15 ~ 2/6)

「グリム童話」はドイツのメルヘン集。グリム兄弟が口承と文献から集めたメルヘン集「子どもと家庭の童話」が始まりで、残酷な内容や生々しい表現の部分が子ども向きに改善されたといえます。「ヘンゼルとグレーテル」「白雪姫」なども現代の目で見てみれば…。



店頭選書

7月5日(土) BOOKS なかた掛尾本店で、おすすめの本を選びました。

(参加者) 田上 志保(301) 塚原 楓(301) 坂本 楓(304)



「終業式」

姫野カオルコ 著 913-ヒ

この本の登場人物たちは「手紙」で会話をし、「手紙」で物語が綴られていきます。

高校時代の同級生を中心に、手紙で構成される幾年ものそれぞれの人生。中には誰の目にも触れられなかった手紙も…。

「手紙」という手法のおかげで、登場人物の感情がダイレクトに伝わってきます。青春、友情、恋愛、人生など、いろいろなことが込められている一冊。



「響け! ユーフォニアム」

武田 綾乃 著 913-タ

すっかりレベル落ちてしまったかつての吹奏楽部強豪校が、新しく顧問としてやってきた先生の指導のもと、部員一丸となって全国大会を目指す。

吹奏楽部ならではの部員と顧問との信頼関係やメンバー選考のオーディション、コンクール当日の舞台裏での緊張感、「ダメ金」の悔しさなど…。リアルな青春小説なので、一緒にドキドキして熱くなれます。

アニメ化も予定されている作品。



「金曜日のバカ」

越谷オサム 著 913-コ

不器用だけど一途な思いを抱えた「バカ」たちが繰り広げる、愛と青春の日々を描いたほっこりキュートな短編集。

題名になっている「金曜日のバカ」は、ある女子高生が下校時に気弱な引きこもりの青年と出会ったことで、毎週金曜日に会うことになるというお話。なぜ金曜日なのか、会って何をするのかは、本を読んで確かめてみてください。



「人生相談。」

真梨 幸子 著 913.6-マ

「居候に悩んでいます」「しつこいお客に困っています」…新聞の人生相談の投稿欄をもとに、一見何の繋がりもなさそうな投稿者たちが、どんどん繋がっていく。

読みすすめていく中で、意外なところに繋がりを発見するのがおもしろい。再読したいと思える作品です。

富山県生徒図書委員研修会

8月1日(金)

場所:「創造の森 越中座」

参加者: 亀谷吉乃(102) 米島萌里(104)

研修Iでは富山高校・福岡高校等4校から、特色ある活動について報告があった。DVD試聴会や学校祭での古本販売といった企画が興味深く、「行動に責任を持つ」という図書委員の心がけはお手本にしたいと思った。

研修IIでは、新聞の歴史や新聞の作られ方について説明を聞き、「越中座」を見学した。印刷の現場はインクのおいさがすこく、1日に使う紙の量に圧倒された。

「オーサー・ビジット」 応募記念の本について

図書委員会は、本の作者が出張授業をする「オーサー・ビジット2014」(朝日新聞社主催)に応募しました。これは、訪問してほしいオーサーへのメッセージを寄せ書きして送り、オーサー本人が色紙を見て学校を選ぶものです。

残念ながら、写真家・石川直樹さん(国語総合教科書「今ここにある無数の未知」の著者)の1枚には選ばれませんでした。応募記念としてサイン入りの著書(「最後の冒険家」集英社文庫)が届きました。



今年度の活動を振り返って ~本とのふれあい・人とのつながり~

●日頃の活動を通して



- ・カウンター当番の仕事をして、図書室のどこにどんな本があるかよくわかるようになった。(1年)
- ・本の並べ方やラベルの貼り方まで教わって楽しかった。(1年)
- ・POPを作った時に、今まで触れたことのなかった本に触れることができた。(1年)
- ・貸出や返却の時の「ありがとう」の言葉がうれしい。(2年)

- ・週に1回は必ず図書室に行くので、さまざまな本に触れることができてよかった。(2年)
- ・読書履歴調査は1年間の大事な記録なので丁寧に行った。(3年)



ハロウィーンに向けて飾り付け

●いろいろな活動について



店頭選書

- ・統一 HR は図書委員が中心になってやることで、本に興味を持ってくれる人が増えたと思う。(2年)
- ・教養講座は初めて参加したが、勉強になった。(2年)
- ・読書会ではグループの人と意見を交換し、読書の楽しさを改めて実感した。(3年)



蔵書点検

- ・蔵書整理は大変だったけれど、知らない本や著者に出会えた。(1年)
- ・店頭選書はみんなが読んでくれそうな、自分でもおもしろそうだと思う本を選んで楽しかった。(3年)
- ・「LIBRARY」の内容を考えるのに苦労したが、多くの人に読んでもらえてやりがいがあった。(3年)
- ・企画展はテーマ決め・本選び・レイアウトと大変だったが、選んだ本が借りられた時はうれしかった。(3年)

~3年生の感想から~

- ・部活動のような感覚で楽しく活動できたので、3年間継続できてよかった。
- ・様々なジャンルの本を手取るようになった。視野が広がり、良い経験だった。
- ・3年間続け、効率よく仕事ができるようになり、自分の成長を感じることができた。
- ・大変な仕事もあるが、どれもやりがいを感じられるものなので苦ではなかった。他学年と協力して行う活動もあり楽しかった。
- ・様々な活動を通して、自分のすべきことをしっかり理解することの大切さを学んだ。



「雲母(きらら)」の由来

きらめく「雲母」の、美しいものを生み出し豊かに有むイメージに、生徒ひとりひとりが読書を通して魂を成長させて輝いてほしいという願いを重ねて、本校の図書館名としました。



白雲母

◆◆◆◆◆ 図書委員長から ◆◆◆◆◆

カウンター周辺がリニューアルし、人口のドアも中が見える明るいものになった図書室。

この図書室で、私たち図書委員は今年度もたくさんの活動を行いました。どれも仕事内容が多く、大変だと思いましたが、学年を越えて協力し合うことができたと思います。

「WELCOME」の文字と季節の飾りが迎えてくれる図書室に、ぜひ気軽に足を運んでください。たくさんの本が皆さんとの出会いを待っています。

中本 裕佳 (303)